

令和2年度 学校評価票(教職員)まとめ一覧表(56/56名) 回収率100%

		質問内容	A	B	C	D	A+B	C+D
行きたい学校	1	児童生徒一人一人の見え方の状態や障がいの特性等に配慮し、主体的・対話的で深い学びを目指し、進路実現に必要な確かな学力の向上と授業の実践に努めましたか。	37%	63%			100%	0%
	2	小学部・中学部・高等部においては、専門性を発揮しながら少人数を生かした指導を充実させ、積極的な社会参加と自立をめざしましたか。	37%	63%			100%	0%
	3	理療科においては、臨床の知識・技能の定着を図り、国家試験合格とあはき師のプロフェッショナルの育成に努めましたか。	50%	50%			100%	0%
行かせたい学校	1	学習指導のみならず、触れる・聞く等の体験に重点を置いた活動を積極的に展開し、成就感を高め、豊かな人間性の育成に努めましたか。	45%	54%	1%		99%	1%
	2	児童生徒が自らの障がいや健康に関心を持ち、適切な健康管理ができるよう食育や健康教育を推進しましたか。	40%	60%			100%	0%
	3	将来の自立と社会性の育成を目標に据え、家庭と連携しながら、寄宿舎におけるきめ細かな生活指導に努めましたか。	73%	27%			100%	0%
頼りたい学校	1	地域支援センターの役割を全県下で積極的に推進し、視覚障がいを有する方とその家族を支援し、自立と社会参加を促しましたか。	46%	52%	2%		98%	2%
	2	地域や近隣の学校との共通理解に努め、交流および共同学習を通じて互いを理解し学び合う教育活動を推進しましたか。	10%	80%	10%		90%	10%
	3	学校独自の教育活動を幅広くアピールし、視覚支援学校の教育や活動を多くの方々に周知していただく活動に努めましたか。	11%	85%	4%		96%	4%

A:よく当てはまる B:だいたい当てはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

○分析

全般的に教職員アンケートの結果が他と異なる特徴は、B評価がA評価よりも数値が高い傾向にあります。これは、教職員が教育活動に対して常に努力し続ける姿勢と思われる。

【行きたい学校：一人ひとりの自己実現を図るために必要な学力の向上を目指し、障がいの特性等を配慮した「わかる授業」の実践】

今年度は、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の実践に向け、アクティブラーニングを取り入れた授業を展開することを目指し、おおむね高評価でした。また、専門性を発揮しながら少人数の特性を生かし、個別指導の充実は図られましたが、積極的な社会参加については、今年度はコロナ禍の影響で十分に行われない面もありました。

【行かせたい学校：発達段階や障がいの状況に応じて、健康で安全な生活を営む姿勢の育成と家庭と協力しながら自立に向けた能力の向上】

2つ目の柱である、保護者が「行かせたい学校」を目指し、コロナ感染防止対策をとりながら、まず触れる、確かめるなど実際の体験を大切に活動を取り入れた指導により豊かな人間性の育成については、おおむね良好な評価を得ました。また、寄宿舎における生活能力向上に向けての評価については、昨年A評価が54%であったのに対し今年度は75%に伸び高評価でした。

【頼りたい学校：地域との協働を重視し、学校のみならず様々な団体等との交流及び共同学習を行い、積極的な理解啓発活動の推進】

3つ目の柱である視覚障がい教育の専門機関として、皆様から「頼りたい学校」を目指し教育実践をしてきました。地域支援センターの活動については、県内の視覚障がいを持つ幼児から成人並びにその保護者、関係機関に対してできる範囲で支援を行いました。また、視覚支援学校の啓発活動及び交流及び共同学習においてはCの評価も見られ、コロナ禍の影響を大きく受けたことによるものと思います。